

町の人口

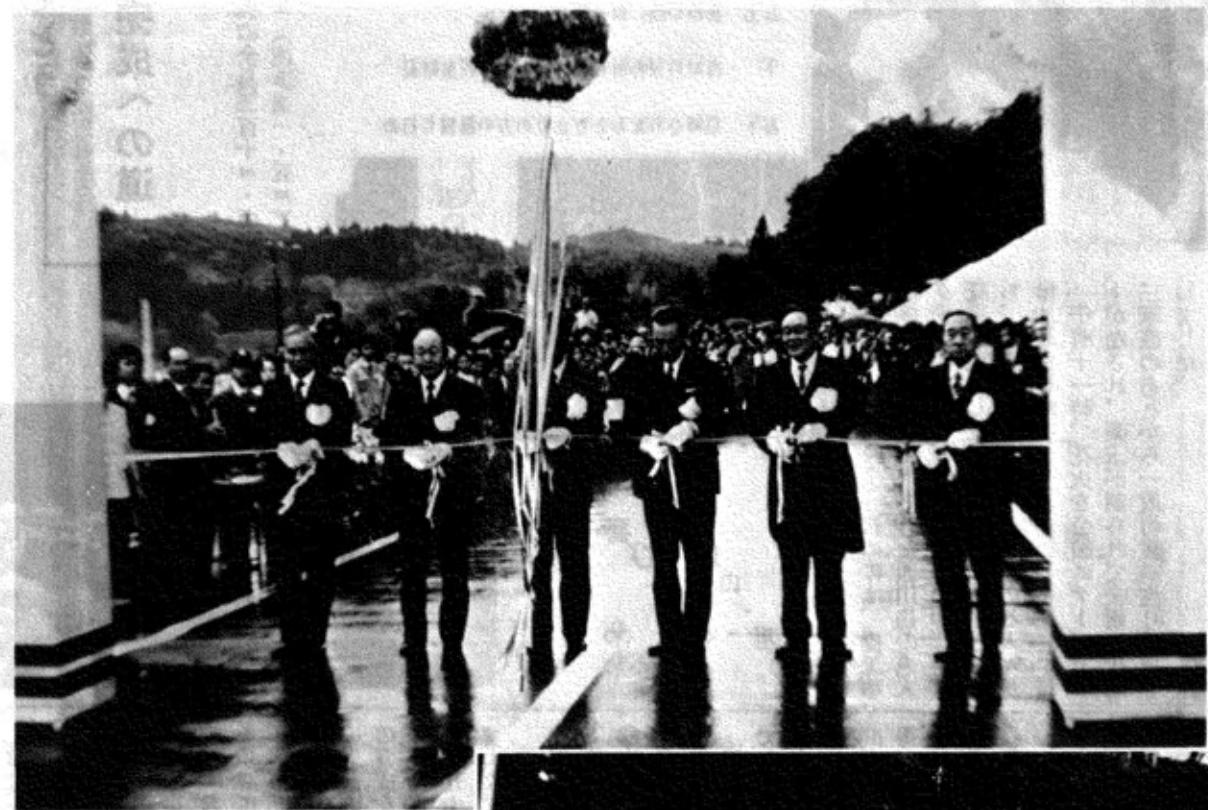
世帯数	1,607
人口	6,957
男	3,405
女	3,552

広報かわぐち

No. 23

発行人 川口町公民館長 保科 清

編集人 桜井 兵治



西倉橋竣工にあたり詠める

橋渡る老も若きも今日の日に
 笑顔は尽きぬ後の世までも
 長らえぬ渡り初む橋千代こめて
 一歩一歩と足を運ばん
 渡し舟繰りしは後世の物語り
 今は渡りぬ西倉橋を
 (八十八歳老星野熊太郎謹詠)

夫婦三代の渡り初め

体育協会の動き

◇町制施行記念 野球大会
 組み合わせ 決まる

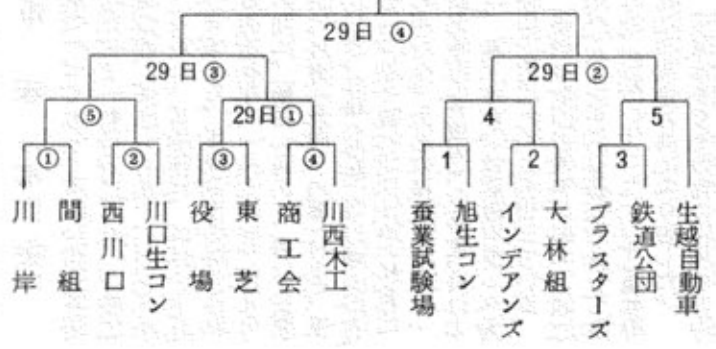
◇町野球協会では六月二十二日と二十九日川口中学校グラウンド及び統合中グラウンドにて町制施行記念大会を行ないます。今年は、特に参加チームが多く好試合が期待されます。組み合わせは次の通りです。

◇十八番ハイキングコースを整備

◇月例山行は七月五日六日 荒沢一中の岳一十ヶ峠へ 山の会

◇排球の審判講習会は六月二十一日、午後十時から福祉センターにて行います。 排球協会

陸協では毎週日曜日、おはよう走る会を行っています。近くロードレースを行う予定でおりますので、川口小学校グラウンドに六時までに集まりください。



※○のついた番号は統合中学校グラウンド、数字だけのものは川口中学校グラウンドにて22日から始まります。

広報メモ

▽西倉橋が完成し嬉しそうな顔々……町農業の飛躍的な発展に結びつけて行きたいものです。

▽城郭のミニチュア版というべき……本陣跡、中林宗衛さんから寄稿いただきました。唐丸籠のことなども興味深く記述されております。

▽東部地区館長関鹿之助さんが、五月二十八日、五十才の若さで逝去されました。長年社会教育一筋に生きてこられただけに……これから大きな期待をかけられていただけに……と悔まれます。同氏の情熱と遺志・功績は私達こそが継いでゆかねばならないと存じます。

▽田植も終わりました。さわやかな季節ですが「おはよう走る会」が回を重ね盛んになっていきます。体力づくりは財産づくり……みんなで大いに走りたいものです。

▽前22号に誤字がありましたので次のように訂正します。
 議会構成
 社会教育→社会文教
 青少年指導者
 藤倉純子→藤倉絹子

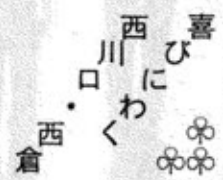
西倉橋竣工おめでとう 長かった西倉橋完成への道

西川口地区の西倉は信濃川にはばまれ大変な不便を塔えてきた。江戸時代より昭和四十二年まで、雪が降っても渡船の仕事は部落や町でやってきました。昭和四十二年二月二十八日から、県道川口・塩殿線として認定され、県営の渡船場となりました。数十年前から切実な願いとして西倉に橋を架けてという運動が起り、昭和四十四年十一月五日「西倉橋架設促進期成同盟会」が設立しました。この運動の結果、昭和四十五年四月に工事に着手し、三億五千五百万円を投じて、今ようやくその完成を見る事ができました。

橋の全長三百十m・巾員は七・五m(内歩道一・五m)です。
左上 喜びの顔、顔、顔
下 西川口保育所のこどもたちの花束贈呈
右下 招待されたおとりよりの方の橋渡り初め



初めには、橋工事関係者を始め、招待された西川口の老人クラブの方々、プラスチックの中学生、花束贈呈をした西川口保育所の子どもたち、町民の方々など千人を超える人々が参加しました。
午前十一時、花火を会館にテープカットがなされ、薬玉が割られて夫婦三代の三家族のあとから一般町民が渡り初めをしました。
その後、福祉センターでは式典が行なわれ西倉橋架設に功労のあった方々に表彰状が渡されました。



農業者年金について 制度が一部改正された

農業者年金制度は昭和四十六年に発足し五年目を迎えました。この間における農業事情も四十九年を頂点に大きく変化し、兼業農家にとっては農業後継者の確保がむずかしい現状であります。農業者の老後の生活の安定と農業後継者の育成を目的として開始されたこの制度も、こうした諸情勢をふまえて五十年一月から一部改正されました。

- 改正点は次のとおりです。
- ◎保険料の引上げにより支給額も二・二倍に引上げられました。
- ◎出稼期間も農業者年金の被保険者期間として通算されることになりました。
- 現在までは国民年金の被保険者でなくなった場合は資格喪失になりましたが、改正後は一ケ年中、四ケ月以上国民年金の被保険者期間があれば有効です。しかし出稼等で国民年金以外の年金に加入したり、やめた場合は農業委員会又は農協に申し出なければなりません。
- ◎年金額は物価の変動にスライドします。又保険料の前納割引があります。
- ◎五十一年から経営移譲年金の支給が開始されます。経営移譲については五十一年中に満六〇才になる人で、今年から采年中に経営を六〇才未満の後継者又は第三者へ譲渡を完了すれば該当します。

新規に加入する人に対しては、三〇アール以上の面積を持つ四〇才未満の農業経営主又はその後継者に限られます。

- ◎加入出来る人は四七八名であり、現在加入している人が三〇名です。未加入者が一五八名もおります。老後の生活の安定を考慮して早目に加入して下さい。四〇才を過ぎると加入したくても出来なくなります。
- ◎申込みは印鑑を持参し、農業委員会又は農協で簡単に出来ます。や耕作を廃止した場合には農業委員会に申し出て下さい。
- ◎農業委員会では来年度の受給権者について説明会を計画しています。詳しいことは委員会におたずねください。

町役場人事異動について

- 五月十六日役場の人事異動があり係長以上は次のとおり
- 総務課長 古田島友一郎
 - 住民課長 関口 治郎
 - 保健衛生課長 古田島博英
 - 企画課長 金子 真
 - 企業課長 渡辺 勇
 - 教育次長 広井 幸雄
 - 保健衛生課補佐 関 公一
 - 企画課補佐 真島 淳
 - 産業課補佐 杵淵 光行
 - 企業課補佐 渡辺 政男
 - 田舎支所長 古田島一政
 - 税務課係長 丸山 晃
 - 産業課係長 内山 敦夫
 - 共済係長 星野 孝

お母さん方へ

「健康な暮らし教室」に参加しましょう

六月二十五日
福祉センターに於いて
「衣類の科学」
講師
十日町織物工業協同組合
川勝益三郎さん

ヘルメットをかぶってください
違反者は減点されます
7月1日から実施

道路交通法の改正でバイクに乗る時はヘルメット着用が義務づけられていましたが、こんどこれらの違反者には減点するという罰則規定が適用になります。同乗者が着用しない場合も運転者に対して点数が加えられますからご注意ください。

前夜祭で幕あけ 町ぐるみの 川口まつり

七月十八・十九の二日間にわたる川口まつりを、ことしは十七日の夜から前夜祭で幕をあけ、行事内容も年行事、公民館、商工会が中心となって全地域に呼びかけて行事に参加してもらおうという町ぐるみの行事計画をたてています。近く行事計画をまともみなさんにお知らせします。

「農業安全使用運動」のお知らせ

六月一日から八月十五日まで農業安全使用運動実施期間です。今年も農業を使用する時期になりました。農業による事故は皆様の努力によって未然に防がれておりますが、一歩まちがうと大事故につながります。これを機会に農業の性質、毒性、残留性などを再認識し、正しい使用方法、安全な保管方法を守り、事故が絶対に起きないように充分注意しましょう。

大学卒警察官募集

- 一、申込み受付期間 六月十六日から 七月五日まで
- 二、申込み先 小千谷警察署 近くの派出所又は駐在所
- 三、受験資格 (1) 学歴 学校教育法による大学(短期大学を除く)を卒業した者又は、昭和五十一年三月三十一日までに卒業見込みの者 (2) 年齢 昭和二十三年四月二日から昭和二十九年四月一日までに生まれた男子
- 四、採用予定人員 本県約二十五人 警視庁、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府で本県から二・五人
- 五、採用予定日 昭和五十一年四月一日 (詳細は、小千谷警察署受験係(電話)一四二二番)にお問い合わせください

停電のお知らせ

- ◎荒屋の一部、岩出原、相川口、小和北、前原、大形、田中、大谷内、小高 — 6月24日9時半から13時30分。
- ◎東川口の一部(内藤電機附近より下全域と農協の通り全部)峠、竹田、牛ヶ首、木沢 — 7月7日8時30分~12時30分。
- ◎東川口の一部(内藤電機附近より山勝堂附近まで) 東北電力株式会社 小千谷営業所

映像機操作 技術講習会

魚沼視聴覚センターでは次のように映像機操作技術講習会を開催します。

- 北魚沼郡 六月二十四日 二十五日
 - 小千谷市 七月十日 十一日
- 申し込みは町教育委員会

「御本陣」入口の遺構 川口町史跡に指定



昨年川口町文化財保護条例が制定されたことは、既にお知らせしたところですが、川口町文

おしらせ



化財第一号として、五月十五日付を以て、次のように指定されました。

- 一、種別及び名称 史跡 御本陣入口の遺構
- 二、所在地、地目、地積 一所在地 川口町大字川口 口地目 宅地 八入口柵形の部分約一五〇㎡
- 三、所有者の氏名 中林宗衛 沿革、特徴など、中林宗衛氏の記事をこら下さい。



川口町青年団結成なる

六月七日午後八時、福祉センターにおいて「川口町青年団結成総会」が行われました。

総会には約六十名が参加し、角張菊治準備委員長のあいさつのおと元青年協議会長関鹿栄氏から激励のことばがあり、議事に入った。

青年団活動は今まで、社会情勢の変化で低滞していたが、この数年、サークル活動が活発になり、昨年七月十一日連絡協議会が設立された。

次代を担う青年の連帯の場をつくる新たな青年団活動への若者の期待は大きい。

当日規約、事業計画予算案などが承認され、次のように役員が決定した。



川口町青年団結成総会
運営委員 丸山 清 関 一博 大淵 真平

- 会長 中林 浩
- 副会長 広井 淳一
- 書記 中林美智子
- 監事 網 利雄
- 会計 山田恵美子
- 山田きみ子
- 大淵 八郎
- 佐次 登子
- 事務局長 関 正行
- 河上 徳明
- 宮 敏一
- 小林 孝
- 広井 伸昭

青年団員募集中!!

若者よ

何かを求めよ

右役員にご連絡を!!

本年度の地方税法の改正点のあらまし

住民税の減税と

ガス税の引き下げ

国は、地方税負担と地方財政の現状にかんがみ、住民負担の軽減を合理化を図るため、地方税法の一部を改正する法律を公布、四月一日から施行しました。これに伴い町税条例の一部改正が先般の町臨時議会において議決されました。

以下主な改正点についてお知らせします。

- 個人の住民税
 - 所得控除の引き上げ
 - 基礎控除と配偶者控除については一万円、扶養控除については三万円引き上げられたことになりました。

区分	昭和五十年	昭和四十九年度
基礎控除	十九万円	十八万円
配偶者控除	十九万円	十八万円
扶養控除	十七万円	十四万円

なお、配偶者のいない世帯の一人目の扶養親族に係る扶養控除及び老人扶養控除の額はそれぞれ十九万円（昭和四十九年度十六万円）となりました。

2. 個人の住民税の納税義務者が障害者、老年者、寡婦又は勤労学生である場合は、控除対象配偶者又は扶養親族が障害者である場合は、これらの人それぞれについて所得金額から

控除するものとされていますが、これらの人の税負担を軽減するためにその控除額をそれぞれ三万円引き上げ次のようになりました。

区分	昭和五十年	昭和四十九年度
障害者控除	十六万円	十三万円
通常の障害者	十九万円	十六万円
特別障害者	十六万円	十三万円
老年者控除	十六万円	十三万円
寡婦控除	十六万円	十三万円
勤労学生控除	十六万円	十三万円

- 中小企業者の税負担の軽減を図るために、白色申告者に係る事業専従者控除の控除限度額が十万円引き上げられ三十万円になりました。
- 障害者、未成年者、老年者又は寡婦については、これらの人が一般的に所得力が弱く、担税力が乏しいことを考慮して、これらの人の所得が一定金額以下の場合には住民税を課税しないという住民税独自の制度を設けています。その非課税所得限度額を十万円引き上げ六十万円となりました。

電気税及びガス税

- 従来、軽自動車税の賦課期日（四月一日）後に取得し又は廃車をした場合における月割課税の対象から今回二輪及び三輪の軽自動車税が除かれました。

関鹿之助氏 逝去さる

東部地区館長関鹿之助氏は、かねて病氣のため小出病院に入院加療中のところ、手厚い看護のかいもなく、去る五月二十八日遂に逝去された。

氏は終戦直後いわゆる混乱の時期に、川口村連合青年団長、北魚沼郡連合青年団長を歴任、青年団のよきリーダーとして青年団活動に数々の功績を残したことは町民の皆さんのよく知るところである。

近年は県立小出病院に勤務のかたわら、川口町公民館運営委員、川口町社会教育委員を歴任、東部地区館長を兼ねて、町の社会教育に尽粋された。

氏の高い識見と情熱、実行力は大いに期待されていただけに、氏の逝去は町の損失とも云うべく、惜しいことである。

「カヌークラブ員募集のお知らせ」

信濃川カヌークラブ（仮称）では「自然の中でスポーツ」をモットーにクラブ員を募集しています。

カヌーは最も原始的なスポーツであると同時に最も現代的でナウなスポーツです。

冒険好きの若者には激流を下る「ワイルドウォーター」カヌーには湖沼や川のロマンチックな「ワンタリング」、そしてグループでの「カヌーツア」などいろいろ

な楽しみがあります。入会の条件としては、15才以上の健康な男女として、

二 若干泳げる人

三 心臓に欠陥のない人

当クラブでは今年の主な行事として、

一、長岡祭り（8月2日）カヌーパレードを行います。（BSN放映予定）

二、粟島横断（又は佐渡横断）の計画を立てています。

一日の練習で川を下れるようになります。連絡は田代山根井正道君迄 TEL二五二五・有二三〇一五

本陣のこと

中 林 宗 衛

昨年「川口町文化財保護条例」の制定に伴い、川口町文化財調査審議会が発足し、取りあえず委員十数名で、蓋屋 吉倉地内の縄文遺跡を調査見学したが、このほど教育委員会で町内の文化財を査定し、保護して行くということになり、その先鞭として、旧川口宿本陣の遺構に記念碑を建てる計画になったので、それに関して記してみようと思ふ。

先ずその場所が私の家の屋敷の一部であることに、当主として、光栄のこと心から感謝している次第である。

碑面は拙宅に伝来の「御本陣」の掛札の文字を写して彫り、傍に次のような説明の高札を建てることになると思う。

「川口宿は旧三國街道越後側十三



本陣は多くその他の庄屋などの

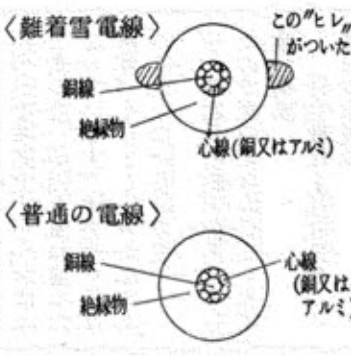
安全を求めて

あたりらしい電線を開発

東北電力小千谷営業所 冬になると電線に多くの雪が氷着しその重みで電線が切れたり電柱が倒れたりして停電し皆様に大変ご迷惑をおかけしたことがありました。そこで雪が降っても雪の着かないような電線を十数年前より研究に研究を重ね、丸い電線にちょうど「魚のヒレ」に

似たものをつけた難着雪電線（図参照）を開発、今後この雪に強い電線を使用していくことになりました。

又、鯉のぼりの時期になると鯉のぼりのポールが電線に触れ感電事故となるケースが、毎年二、三件発生しております。このような事故の起さないよう安全のために電線の絶縁化を進めており、本来は特に人口密集地を優先にということ、七月七日・八日に川口町繁華街の絶縁化工事を予定しております。少しでも地域のために又地域の



珍らしい例は無宿目籠（唐丸籠）が五挺乃至十挺とまとまって通過する際、その輸送指揮官の役人（祿の低い旗本であろうが、責任の重さからか）が泊った記録が数回あって、昭和初年八十歳まで生きていた私の祖母は、幕末、嫁に来た当座この目籠の泊った晩の恐ろしさを、戊辰の役見復讐の戦で、両軍の撃ち合う始めて耳にした大砲の音の不気味さと共に、その印象を晩年までよく語りぐさにしてきた。

目籠は夜土間に据え、中の罪人は後手に縛られて自由は利かず、夜通し警備が監視しているもの、竹で編んだ粗末な籠、中の罪人は佐渡島送り、生きて二度と定髪に帰れぬいわば死刑囚同様、唐丸破りなどということもあり、どんなハプニングが起らぬとも限らず、若妻の身では覚え上ったのも無理は無い。

（町文化財審議委員）